

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和5年9月29日)

事業コード	R5-建-継-14	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業	部局課室名	建設部河川砂防課
事業種別	河川改修	班 名	河川・ダム・海岸チーム(tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 玉川	担当課長名	河川砂防課長 木次谷 英成
箇所名	仙北市角館町	担当者名	チームリーダー 玉尾 毅
プランとの 関連	戦 略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	強靱な県土の実現と防災力の強化	
	施策の方向性	頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	S48~R20(66年)	総事業費	125.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長L=6,000m、計画流量Q=1,300m ³ /s(1/30)					
事業の立案に至る背景	玉川は昭和47年7月等の大規模な洪水によって繰り返し甚大な被害を受けてきた。特に対象区間は仙北市角館町の資産・人口が集中する市街地を流下することから、築堤や河道掘削、橋梁の架け替えを実施し、洪水による被害軽減に向けた早急な治水対策が必要となっている。					
事業目的	30年に1度の洪水規模相当の流量(Q=1,300m ³ /s)に対応した断面を確保し、氾濫による家屋浸水被害等の軽減を図る。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	9,720,000	12,500,000	2,780,000		
	経費内訳	工事費	7,652,000	9,790,000	2,138,000	当初想定より、残土運搬距離が延伸したこと等による増。
		用補費	1,582,000	2,003,500	421,500	用地実測値による買収面積の増加・物件移転施設の追加による増。
		その他	486,000	706,500	220,500	築堤、樋管詳細設計及び用地測量の増。
	財源内訳	国庫補助	4,860,000	6,250,000	1,390,000	
		県債	4,374,000	5,625,000	1,251,000	
		その他	0	0	0	
		一般財源	486,000	625,000	139,000	
	事業内容	築堤・河道掘削工	築堤・河道掘削工			
事業の進捗状況	全体計画費 125.0億円 令和4年度末投資額 96.3億円 進捗率 77.0%					
事業推進上の課題	県道の道路橋の架替えに多くの費用を要したことから、残区間の整備に当たっては、現河道を極力活用し、環境保全対策との調和を図りながら、コスト削減を推進し、事業の進捗を図っていく必要がある。					
関連する計画等	新秋田元気創造プランにおいて、県が継続的に取り組むべき基本政策「防災減災・交通基盤」の施策の方向性③の「頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進」に位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	河川改修に伴う用地買収区間に広大な共有地があり、関係者が多数存在するため、用地交渉に多大な時間を費やした。 また、県全体での予算制約と全県域での浸水被害発生による情勢の変化により、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川改修済み延長 / 要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目標値 a	46.6%(R4末目標)		データ等の出典	河川砂防課調べ	
	実績値 b	46.7%(R4末実績)				
	達成率 b/a	100.2%		把握の時期	令和5年3月	

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	上流部で浸水被害が生じているほか、下流には重要な公共施設等もあるため、大規模な洪水被害が発生した場合には甚大な被害が想定される。	30点
緊 急 性	現況の流下能力が低く、ボトルネックとなっている橋梁等も存在しており、浸水被害が発生する無堤区間があるため、早期に改修する必要がある。	8点
有 効 性	最下流部の河川改修が実施されたことにより、沿川の浸水被害が軽減されるなど、災害防止等の効果が発現されていることから、有効性は高い。	15点
効 率 性	事業の費用便益比は3.48であり、効率性は高い。また、山付部等、現況河川を極力活用した線形とし、河川改修事業の促進を図っている。	11点
熟 度	浸水被害の解消に向けて、地元からの要望が高い。計画立案時に現況の低水路や河畔林を極力保全し、自然環境等に配慮した工事を進捗している。	21点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ) 地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき。	85点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (R5-建-継-14)
箇所名 (一級河川 玉川 仙北市角館町)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況				
	浸水戸数	50戸以上	10	10	710戸
		10戸以上49戸以下	7		
		9戸以下	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	720ha
		10ha以上60ha未満	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	大仙市中仙支所 仙北市立角館総合病院 広域消防中仙分署
		1施設以上	3		
		なし	0		
整備計画の策定					
関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	5	H21.6	
	協議中であるが特段問題ない	3			
	策定に着手していないが予定がある	1			
	予定なし	0			
計			30	30	
緊急性	災害発生の危険度				
	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	73% (現況948/計画1300=0.73)
		40%以上60%未満	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画				
重要水防地域	評定基準区分A	5	3	R5水防計画書より区分B	
	評定基準区分B	3			
計			15	8	
有効性	河川整備の有効性				
	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	都市計画区域	
	地域開発の計画がある	1			
	予定なし	0			
計			15	15	
効率性	事業の投資効果				
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	3.48
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減				
	該当項目数	3項目以上	5	3	排水樋管の統廃合 地形を生かした線形
		2項目	3		
		1項目	1		
なし		0			
前回計画との比較					
前回計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	3	129% 97.2億円→125.0億円 (27.8億円増額)	
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	11	
熟度	地元の状況				
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	事業の進捗状況				
	進捗率 (事業費)	8割以上完了	10	8	(R4)96.3/(計画)125.0 =77.0%
		5割以上完了	8		
1割以上完了		5			
1割未満		2			
環境との調和への配慮状況					
環境保全への配慮 (秋田県公共事業環境配慮システムでの 環境配慮事項)	3事項以上	5	5	清田部や瀬、池及び樹木の保全 取水路は平坦な河床を避け、自然な形状 とする 排出ガス対策型車両や機械の採用 生態系に配慮した護岸工の実施	
	1事項以上	3			
	環境配慮事項がない	0			
計			25	21	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		